

# 掃除作業マニュアル

Cleaning work Manual Rev. 5

RS09-2004

**ROYAL SAKURA**

中根光男 著

## 目 次

	Page
1 掃除とは.....	3
2 掃除の基本手順.....	4
3 汚れの落とし方.....	6
4 場所別の主な材質と手入れの仕方.....	8
5 対象面の材質.....	9
6 洗剤と洗浄剤.....	9
7 洗剤と洗浄剤.....	11
8 掃除作業の要領	
8.1 キッチン.....	16
8.2 浴室.....	21
8.3 トイレ.....	22
8.4 リビング.....	25
8.5 窓.....	26
8.6 床.....	27
改訂履歴 .....	28

# 掃除作業マニュアル

## 1 掃除とは

### 1.1 汚れは、ため込まないで、軽いうちに落とす

汚れは、ため込まないで、軽いうちに落とす。

たとえば、ガスレンジのふきこぼれで、放っておくと、こびりついて落ちにくくなり、後始末が大変。家中のホコリだって油断は禁物。時間がたつと、頑固な汚れやシミになってしまうからである。汚れがいたら軽いうちに、手早くこまめに取り除く。これを心がければ、掃除は簡単にすむ。もうひとつ大事なことは、落としたい汚れの種類と状態を知ることである。どんな汚れかによって、どの洗剤や道具を使えばいいのかが分かる。

### 1.2 掃除部分の材質チェックを忘れない事

床ひとつとっても、フローリング、白木、クッションフロアなど材質はいろいろ。汚れたからといって、洗剤をつけてゴシゴシ拭けばOK、というわけではない。もし、その材質に合わない洗剤を使い、間違ったやり方をすれば、せっかくの努力も台なしになる。汚れが落とせないどころか、材質を傷つけ、変色や脱色を起こすこともある。そんな失敗をしないためにも、材質のチェックはとっても大切なポイントです。

### 1.3 洗剤や用具の特徴を知って、上手に使いこなす

ラクにキレイにするために欠かせないのが、洗剤や用具類。汚れと材質に合わせて、効果的に使うためには、特性や正しい取り扱い方を知ることが一番である。どの洗剤をどの用具で、どれくらいの時間使用すればいいのか、なんてことも、基礎知識があれば判断できる。迷った場合は、影響の少ない洗剤・用具から始めて、汚れの落ち具合と材質への影響を見ながら、徐々に強力なものを試してみる。

## 2 掃除の基本手順

動きにムダがあれば、よけいに時間がかかるだけである。テキパキはかどって、仕上がりにも差がでる。

### 2.1 掃除の基本は「上から下へ」



ホコリは上から下へ落ちる。だから、掃除も高いところからスタートして、低いところで終わること。もし、床にモップをかけた後で、家具などのホコリやゴミをはらえば、それが下に落ちて、またまた床掃除をするハメになる。こんなムダをなくすためにも、「上から下へ」の手順を覚えておく事。

### 2.2 「奥から手前へ」で効率よく



掃除の二度手間を省くために、もうひとつ大事な手順は、「奥から手前へ」である。掃除した所を踏まないためにも、出口から遠い奥から掃除をして出口付近で終わる。特にワックスがけなどを行うときは、このルールを必ず守る事。うっかり手前から先にしてしまうと、ワックスが乾くまで歩けなくなってしまう。

### 2.3 洗剤は「まずスポンジにつけてから」



汚れは早く落としたいものである。でも、洗剤を汚れに直接かけない事。その前に、スポンジや「ぞうきん」に含ませて、大丈夫かどうか、ちょっと様子を見ながら拭く。洗剤によっては、材質を傷めるものもある。洗剤の使用は、まずスポンジや「ぞうきん」につけ、試してから行うことが大切。

### 2.4 洗剤も拭き取りも「下から上へ」



材質を傷めず、使っても大丈夫か、それが確認できれば、汚れた部分に洗剤をつける。このとき、洗剤は「下から上へ」塗り、拭き取りも同じように「下から上へ」にする。上から下へ行くと、液ダレが取れなくなることがあるので、くれぐれも逆にやらないように注意する事。

### 2.5 作業は「軽い汚れからひどい汚れへ」



材質への影響を的確に判断することは、難しい。そこでまず、マイルドな洗剤で軽い汚れを落とす。それでも落ちないひどい汚れは、もう少し強い洗剤を使ってみる。こういうステップで、材質に影響がないかをチェックしながら、作業を進めると、大きな失敗が防げる。

### 3 汚れの落とし方

家の中の汚れといっても、その中身は千差万別である。ホコリだって、放っておくと手強い存在になってしまう。まず汚れを見極めることが、攻略の早道である。

#### 3.1 ホコリはどこから出てくるのか

ハウスダストといわれる室内に存在する小さいホコリは、屋外から入り込んで室内で発生したチリなどが集まってできる。

人が動くたびに、空気がかき回されて舞い上がり、ゆっくりと下に落ちてくる。部屋のすみや家具の裏側にホコリがたまりやすいのは、空気が動かない場所だからである。ホコリの代表的なものは、服やふとんなどから出る綿ボコリ、食べ物のカス、抜け毛やフケ、外から入ってくる砂ボコリなどである。

そのほか、花粉、ダニ、カビの孢子、タバコの煙や排気ガスなど、目に見えないものもある。ホコリに含まれている物質がアレルギー症状の原因となることもあるので、たかがホコリと思わないで欲しい。



#### 3.2 汚れはホコリのうちに取ってしまう

床のホコリは目につくので掃除するけれど、棚や壁はついつい後まわしになる。そんな人も多いのではないかと。ところが、棚の上のホコリがある日、ただのホコリではなくなってしまうことがある。



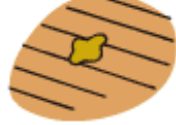

ホコリは最初、「軽くのっている」状態なので、はたけば簡単に落ちる。でも、少し時間がたってホコリに水分や油がつくと、「こびりついた」状態になり、ホコリがやっかいな汚れに変身する。もうはたいたり、吸い取ったりしても、きれいに落ちなくなって、水拭きや洗剤拭きが必要になる。そのうえ、長く放っておけば、材質の表面に染み込んでシミになる恐れもある。だから、簡単に取れるホコリのうちに掃除をすることが大切である。

### 3.3 汚れの種類によって、掃除方法が変わる

どんな場所にどんな汚れがついているのか、汚れの正体は何なのか、どの程度の汚れなのか、まず、それを知ることが、ラクに掃除するコツである。

ただし、どんな汚れでも、ついてすぐなら落とすのは簡単である。洗剤に頼らなくても、大丈夫。だから、水拭きだけでOKという汚れに、いきなり強力洗剤を使う必要はない。

### 3.4 汚れの種類と落とし方

 ホ浮遊している コリ	<p>空気中に浮いているホコリ。 目に見えない10マイクロメートル (1マイクロメートル=1000分の1ミリ) 以下の大きさがほとんどで、 0.5マイクロメートルより小さいものは、 半永久的に浮遊している。</p> 	<p>空気清浄機で 吸引・清浄する。</p> 
 ホ軽くのっ コリ	<p>床や家具の上に軽くのっかったり、 くっついている状態のもの。 綿ホコリや砂ホコリ、食品カス、糸クズ、 髪の毛など。</p> 	<p>はたいたり、モップがけ、 掃除機がけで取る。 ぞうきんで乾拭き、 水拭きも。</p> 
 汚表面に れ付着した	<p>材質の表面にこびりついたり、 べたついて固まっている汚れ。 手アカ、油汚れ、泥汚れ、 タバコのヤニなど。</p> 	<p>水や洗剤で拭いたり、 ヘラなどでかき取る。</p> 
 ひ染み どい込 汚んだ れだ	<p>材質の表面に付着した汚れが、時間の 経過とともに空気や熱などの影響を受 けて変化したもの。材質に染み込んだり、 吸着しているため、落としにくい。 こげつき汚れ、樹脂化した油汚れ、尿石 汚れ、石けんカス、水アカ、カビ、サビなど。</p> 	<p>強力洗剤や、 漂白剤を使う。 クレンザーで こすり落とす。</p> 

## 4 場所別の主な材質と手入れの仕方

汚れは落とせたのに、床にキズがつき、壁が変色してしまう。これでは掃除の意味がない。材質を傷めな  
いで、キレイにするためには、どうすればいいのか。掃除対象の材質の特徴を知ること、適した方法が  
分かる。

### 4.1 壁

#### ■ビニールクロス

壁の材質で一番多いのがビニールクロスである。水や洗剤が使えるので、掃除も比較的ラクである。これ  
らのホコリは、柄の長いモップや掃除機を使うと便利である。汚れが軽いうちは水拭きし、取れないもの  
は洗剤拭きで行う。

#### ■自然素材

布や紙を貼った壁には、水拭きはダメである。水や洗剤を使うと、汚れが輪ジミになって残ったり、プリ  
ントがはがれたりする。帯電式のハタキや掃除機でこまめにホコリを取る。

### 4.2 床

#### ■フローリング（合板）

表面加工されているものの代表として、合板がある。見た目が美しく、耐水性、耐薬品性に優れたものが  
多い。ただし、表面が強いといっても、板の継ぎ目から水が入るとはがれやすくなるので、水の扱いには  
注意が必要である。普段の掃除は、化学モップなどの乾いたもので拭くのがより良い。

それで取れない汚れは、1~2週間に1回、水に浸し固く絞った「ぞうきん」で水拭きをする。

#### ■フローリング（白木）

表面加工がされていないものの代表として、白木がある。特に日光やアルカリによって黄色く変色しやす  
いので、洗剤を使用する場合は、変色をさけるために中性タイプのもを使う。白木用ワックスがかかっ  
ていれば、普段の掃除は合板と同様にする。ワックスがかかっていなければ、化学モップは使用しない。

#### ■カーペット・ラグ

カーペットのパイル素材には、ウール、ナイロン、レーヨン、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステルな  
どがある。カーペットについている品質表示を確かめて、素材が合繊系か天然系かを見分けることが、ポ  
イントである。合繊系のは比較的手入れが簡単だけど、天然系のウールや絹のものは要注意である。  
ホコリやゴミがパイルの中にもぐり込んでしまうので、見た目よりも汚れている場合が多い。こまめな掃  
除機がけで、ダニのエサとなる食品カスやホコリをためないようにする。



## 5 対象面の材質

素材のタイプを確かめる。天井、壁、床、そして各種の家具など、住まいには、さまざまな素材が使われている。あらかじめその素材がどんなタイプか、掃除を始める前に確かめておく必要がある。知らないまま掃除をして、かえって汚れを広げる結果になることもある。

### 5.1 素材のタイプを簡易に確かめる方法

特に大事なのは、素材が「水を吸う」か「吸わないか」を知っておくことである。水を吸い込む素材か、はじく素材かによって、掃除の仕方が全然違ってくる。確かめるには、次のようにする。

掃除しようとする面に、水滴を落としてみる。すっと吸い込めば、水を吸う素材です。壁などで、水滴が落とせない場合には、スポイトやスプレーを使って確かめる。

プリント合板などのように、一見木のように見えても紙の場合があるので、慎重に見きわめる必要がある。

### 5.2 水を吸い込む素材の掃除の基本

水を吸い込む素材の主なものは、紙、布、木材（素木）、しっくい、皮、土壁などである。水や洗剤を使うことは、シミの原因になりますので、原則として避ける。

### 5.3 水を吸い込まない素材の掃除の基本

塩化ビニル、化粧合板、プラスチック、ガラス、金属などは、水を吸い込まない素材で、水や洗剤を使うことができる。ただし、洗剤によっては、変色するものもある。あらかじめ、目立たない箇所に洗剤を少しつけ、変色や色落ちしないことを確かめてから掃除すると安心である。

## 6 洗剤と洗剤

洗剤の種類には、普段よく使う合成洗剤のほかに、洗剤、漂白剤、研磨剤などがある。

### 6.1 合成洗剤

主成分は界面活性剤で、汚れの種類に合わせて、液性が酸性・弱酸性・中性・弱アルカリ性・アルカリ性の5段階に分かれている。それぞれに適した汚れには、酸やアルカリが強いほど汚れは落ちやすくなるが、反面、手肌や材質には強い影響を与える。合成洗剤を選ぶときは、ラベルに書いてある液性や用途、使用上の注意などの確認をする事である。

#### ●界面活性剤とは

合成洗剤や石けんなど、一般の洗剤の主成分になっているのが界面活性剤である。油と水を結びつけやすくする働きによって、汚れを材質から離して落とす。汚れが再びつきにくくする作用もある。

### 6.2 洗剤

主に酸やアルカリの化学作用で汚れを落とす。キッチンや浴室、トイレなどのしつこい汚れに使用する。カビ取り剤、発泡タイプのパイプ用洗剤も、この洗剤のひとつである。一般に合成洗剤よりも強力なため、塗装面をはがしたり、変色させたりする場合もあるので、注意が必要である。説明書きをよく読んでから使う事。

### 6.3 漂白剤

シミや汚れの色素を化学反応によって分解し、白さを回復させるものである。酸素を与えて白くする酸化型と、酸素を奪って白くする還元型の2種類がある。

#### ●酸素系（酸化型）

塩素系より効き目がおだやか。脱脂力が強く、頑固な油汚れにも効果がある。

掃除が難しい排水管の汚れ落としにも効果が期待できる。

#### ●塩素系（酸化型）

漂白力が強いので、カビ汚れに最適である。特に、タイルの目地のカビ汚れなどに効果がある。

#### ●還元型

鉄サビ汚れを取る場合に最適である。塩素系漂白剤や鉄分で黄色に変色したものを、元の色に戻す働きもある。

### 6.4 研磨剤

クレンザーは、界面活性剤に研磨剤を加えたもので、こびりついた汚れをこすり落とす事ができる。粉末タイプとクリームタイプがあり、クリームタイプの方は粒子が細かく傷つきにくい。まずクリームクレンザーから試してみる事。

## 7 洗剤と洗淨剤

### 7.1 洗剤の種類と特徴

この汚れに最適なものは、いっぱいありすぎて、選ぶのに困ってしまう。だから賢く使うために、ちょっとした知識が大切である。洗剤の種類には、普段よく使う合成洗剤のほかに、洗淨剤、漂白剤、研磨剤などがある。



#### 7.1.1 合成洗剤

主成分は界面活性剤で、汚れの種類に合わせて、液性が酸性・弱酸性・中性・弱アルカリ性・アルカリ性の5段階に分かれている。それぞれに適した汚れには、酸やアルカリが強いほど汚れは落ちやすくなるけれど、反面、手肌や材質には強い影響を与える。合成洗剤を選ぶときは、ラベルに書いてある液性や用途、使用上の注意などの確認する事。

#### ●界面活性剤とは

合成洗剤や石けんなど、一般の洗剤の主成分になっているのが界面活性剤である。油と水を結びつけやすくする働きによって、汚れを材質から離して落とす。汚れが再びつきにくくする作用もある。

#### 7.1.2 洗淨剤

主に酸やアルカリの化学作用で汚れを落とす。キッチンや浴室、トイレなどのしつこい汚れに使用できる。カビ取り剤、発泡タイプのパイプ用洗剤も、この洗淨剤のひとつである。一般に合成洗剤よりも強力なため、塗装面をはがしたり、変色させたりする場合もあるので、注意が必要。説明書きをよく読んでから使うこと。

#### 7.1.3 漂白剤

シミや汚れの色素を化学反応によって分解し、白さを回復させるもの。酸素を与えて白くする酸化型と、酸素を奪って白くする還元型の2種類がある。

#### ●酸素系（酸化型）

塩素系より効き目がおだやかである。脱脂力が強く、頑固な油汚れにも効果がある。掃除が難しい排水管の汚れ落としにも使用できる。

●塩素系（酸化型）

漂白力が強いので、カビ汚れに最適である。特に、タイルの目地のカビ汚れなどに効果がある。

●還元型

鉄サビ汚れを取る場合に最適である。塩素系漂白剤や鉄分で黄色に変色したものを、元の色に戻す働きもある。

#### 7.1.4 研磨剤

クレンザーは、界面活性剤に研磨剤を加えたものである。こびりついた汚れをこすり落とす。粉末タイプとクリームタイプがあり、クリームタイプの方は粒子が細かく傷つきにくい。まずクリームクレンザーから試してみよう。

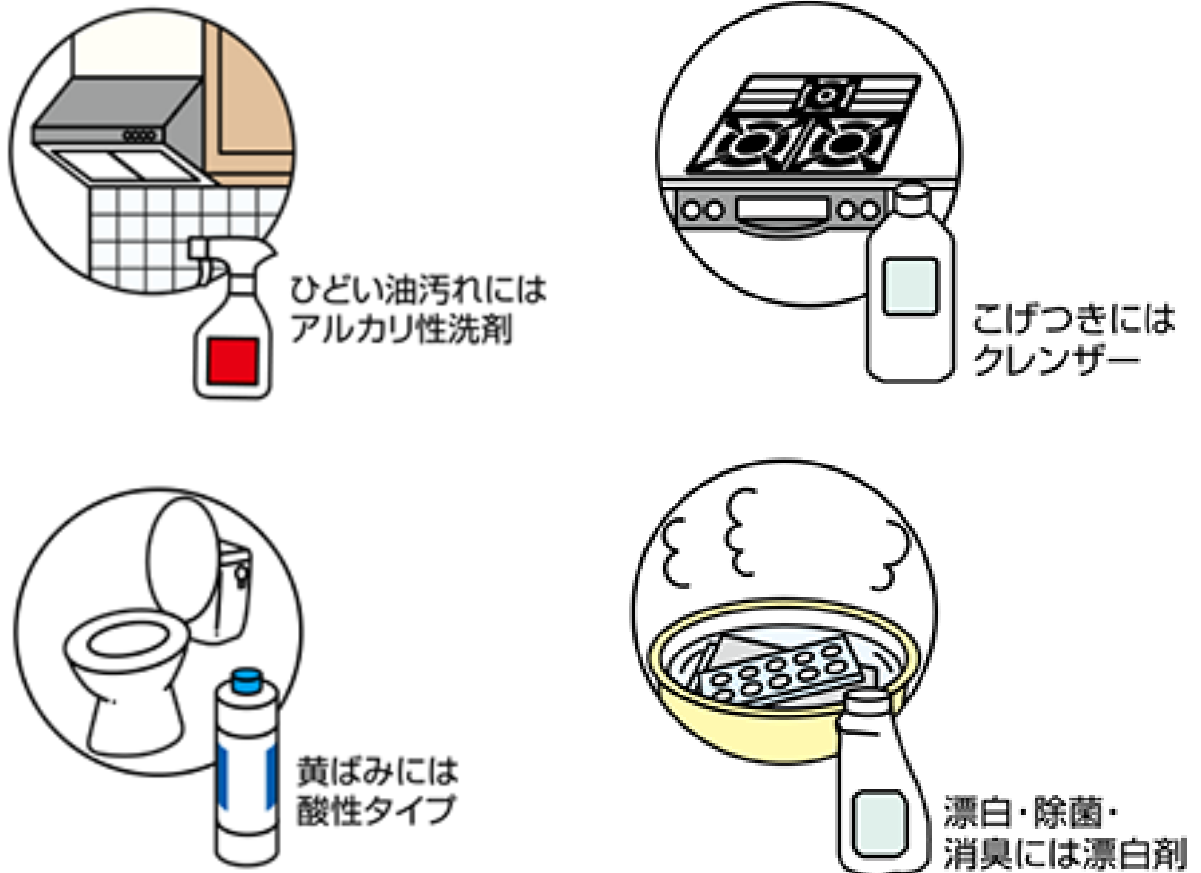
## 7.2 液性の違いと特性

pH（ペーハー）が低いほど、あるいは高いほど洗浄力はアップするが材質や手肌への影響も大きくなる。逆に中性の洗剤は洗浄力がマイルドだけど、影響が少ないので安心して使える。汚れに合わせて使い分ける。液性とは、溶液中の水素イオン濃度 pH（ペーハー）のこと。pH は 0～14 まであり、pH=7 付近を「中性」、それ以下を「酸性」、それ以上を「アルカリ性」と呼ぶ。

pH	液性	長 所	短 所	汚れの種類
0	酸 性	便器の尿石、 石けんカスに 対する 効果が高い。	材質に与える ダメージが大きい。 (特に天然石タイル、 金属には影響大)	尿石、 こびりついた 石けんカス、 水アカ
1				
2				
3	弱酸 性	軽い石けんカス 汚れに効果がある。	皮膚や目に与える 刺激が強い。	湯アカ、 軽い石けんカス
4				
5				
6	中 性	比較的安全性が 高い。 材質への影響が 少ない。	比較すると 洗浄力が弱い。	軽い汚れ ※付着後、 長時間経過 していない汚れ
7				
8				
9	弱アル カリ性	洗浄力が高く、 広範囲の汚れに 適応。	皮膚や目に与える 刺激が強い。	普通の汚れ、 皮脂汚れ、 タバコのヤニ
10				
11				
12	アル カリ性	油汚れに対する 効果が高い。	材質に与える ダメージが大きい。	しつこい油汚れ、 シミ
13				
14				

### 7.3 用途と特徴

たとえば、キッチンの頑固な油污れなら、洗浄力の強いアルカリ性洗剤で落とす。ガスレンジのこげつきはクレンザーを使用する。トイレの黄ばみには酸性タイプの洗浄剤を使う。という具合に、汚れの種類や状態によって、使う洗剤や用具が変わる。



#### 7.3.1 洗剤は必要なものだけ選択する

住まいの洗剤をちょっと挙げるだけでも、台所用、住居用、浴室用、トイレ用などいろいろある。さらに場所別だけではなく、油污れ用、カビ用など汚れの種類に合わせて細かく分類されている。でも、これをみんな揃えなくちゃいけない、という事はない。

なぜなら、付いて、すぐの汚れの場合、たいていは洗剤なしでも、水やお湯で落とすことができるからである。つまり、汚れたらすぐ掃除を実行していれば、強力な洗剤は、ほとんどが必要ない。それに、1日中家にいる時と、外に出ている時では、住まいの汚れ方も違って来るはずである。だから、掃除の回数や家の汚れ具合に応じて、最低限必要なものからムダなく揃えていく。

#### 7.3.2 「酸性」「中性」「アルカリ性」の用途はどう違う

アルカリ性の洗剤は、しつこい油污れに効果を発揮できる。一方、酸性の洗剤は、尿石や石けんカスなどの汚れに強いのが特徴である。だから、トイレ用洗剤の場合、普段の掃除には中性を、頑固な汚れには強力な酸性を、というように落としたい汚れに合わせて使い分けをする。

### 7.3.3 マイルドな洗剤から段階的に試していく

ラクしてキレイにしたいといっても、いきなり洗浄力の強い洗剤を使うのは問題である。強い洗剤は効果が高い分だけ、リスクも大きい。特に、酸性やアルカリ性の洗剤は注意が必要である。汚れは落とせても、材質を傷めてしまい、手荒れの原因になる。まずマイルドな中性洗剤で試して、それでダメなら、もう少し強力なものを使う。というように、汚れの落ち具合と材質への影響をチェックしながら、順々に試してみる。

### 7.3.4 洗剤を使った後はしっかり水拭きを

洗剤成分が残ったままだと、材質を傷める恐れがある。だから、洗剤を使った後は必ず水拭きをしておくことが大切である。これはマイルドな洗剤を使用したときも同じである。長時間放置すると、材質が変色する場合がある。「二度拭きが不要」という洗剤も、もう一度水で拭いた方が、より安心である。

### 7.3.5 「まぜるな危険」について

「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」は十分注意して使用する事。混ぜると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険である。2種類以上の洗剤を混ぜて使用してはいけない。原則として、2種類以上の洗剤を混ぜて、前後に続けて使用しないようにする事。酸性とアルカリ性の洗剤を一緒に使うと、中和作用を起こして効果が減少してしまう。特に、「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ぜると有毒な塩素ガスが発生して、大変危険である。注意事項をよく読んで正しく使う事。また、使用中はしっかり換気をして、ゴム手袋の着用をする事。

[ 一緒に使ってはいけない組み合わせ 例 ]



## 8 掃除作業の要領

### 8.1 キッチン

#### 8.1.1 レンジフード

付いてすぐ、まだ温かいうちなら簡単に落とせるが、こびりついてしまった油污は、なかなか落とせない。汚れがたまった時には、つけおき洗いやラップ法を行う。レンジフードを掃除することで、油で劣化した塗装が、汚れと一緒にはがれることがありますのでご注意ください。

##### 【用具】

ぞうきん・バケツ、または洗剤不要の極細繊維のクロス・ゴム手袋

##### 【薬剤】

ペーパータイプのキッチン用掃除クロス

##### 【準備】

**OFF** 安全のために、電源を切る。

**換気** 窓を開け、風通しをよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

##### 【作業要領】

1. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、外側を拭く。  
または、洗剤不要の極細繊維のクロスで拭く。
2. 軽い汚れがある場合は、ペーパータイプのキッチン用掃除クロスで拭く。

●**ポイント** 使用できる素材や2度拭きの有無などを確認してから使う。





## 8.1.2 ガスレンジ

## 【用具】

ふきん・洗いおけ・スポンジ・ゴム手袋

## 【薬剤】

台所用洗剤・ペーパータイプのキッチン用掃除クロス、または油汚れ用洗剤

## 【準備】

**OFF** 安全のために、ガスの元栓を閉める。

**換気** 窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**取り外し** 外せる部分は外し、終わったら戻す。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

## 【作業要領】

1. 水に浸し固く絞った「ふきん」で、拭く。

2. 五徳・受け皿・グリル・網など、外せる部分  
軽い汚れがある場合は、水で湿らせたスポンジに台所用洗剤をつけてこすり、水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流す。

●**ポイント** フッ素加工のものはキズをつけるとはがれます。キズをつけないために、必ず柔らかいスポンジを使う。

3. 本体など、外せない部分  
軽い汚れがある場合は、ペーパータイプのキッチン用掃除クロスで拭きます。または、水に浸し固く絞った「ふきん」に油汚れ用洗剤をスプレーし、拭く。その後、水に浸し固く絞った「ふきん」で、汚れや洗剤分を拭き取る。

4. 乾いた「ふきん」で、水気を拭き取る。

5. よく乾燥させる。



### 8.1.3 冷蔵庫

外側の汚れの原因は、油煙やタバコのヤニ、手アカなどである。日頃から、こまめに水拭きをして、汚れを落としておくことが大切である。庫内は、食品くずや汚れをこまめに取り除き、数ヶ月に1度は、衛生のために、中の食品を取り出して、しっかり掃除をする。台所用洗剤を使う方法もあるが、酸素系漂白剤を使うと、除菌効果もある。

#### 【用具】

化学モップ、または掃除機・ふきん・洗いおけ

#### 【準備】

**換気** 窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

#### 【作業要領】

1. 化学モップなどで、外側のホコリを取ります。または、掃除機で吸い取る。

●**ポイント** 冷蔵庫の上や、背面、下部の隙間などは、ホコリがたまりやすい場所です。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ふきん」で、汚れを拭き取る。

3. 乾いた「ふきん」で、水気を拭き取る。



### 8.1.4 キッチン壁（ビニールクロス）

食品を扱う所でもあり、衛生面からも、こまめな手入れを心がける。油汚れはついてすぐなら比較的簡単に取れるが、時間が経ってこびりついた油汚れには念入りな掃除が必要です。

#### 【用具】

ぞうきん・バケツ、または洗剤不要の極細繊維のクロス・ゴム手袋・場合によっては、脚立（踏み台）

#### 【薬剤】

住まいの洗剤・ペーパータイプのキッチン用掃除クロス

#### 【準備】

**換気** 窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

#### 【作業要領】

1. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、下から上へ拭いていきます。「ぞうきん」は、つねにきれいなもの、きれいな面を使う。または、洗剤不要の極細繊維のクロスで拭く。

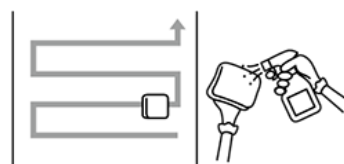
●**ポイント** 「ぞうきん」は数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくとう便利。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ぞうきん」に住まいの洗剤をスプレーし、下から上へ拭く。その後、水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、汚れや洗剤分を拭き取る。または、ペーパータイプのキッチン用掃除クロスで拭く。水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、下から上へ拭いていく。

●**ポイント** 使用できる素材や二度拭きの有無などを確認してから使う。

◆**注意** 洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行う。上から下に行くと、液ダレが取れなくなることがあるので、注意が必要。また、洗剤により塗装面が変色し、表面のツヤがなくなることがあるのでご注意が必要である。

3. よく乾燥させる。



### 8.1.5 キッチン 流し台下部

汚れの原因の大半はホコリですが、他に調味料などがこぼれていることがある。そのままにしておくとシミになるだけでなく、害虫にとって格好のすみかになりますので、日頃から清潔にしておくことが大切。少なくとも、梅雨前には一度、念入り掃除をする。

#### 【用具】

掃除機・ふきん・洗いおけ

#### 【準備】

**換気** 窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**取り出し** 中に入っているものを取り出し、終わったら戻す。

#### 【作業要領】

1. 掃除機でホコリを吸い取る。

●**ポイント** 調味料の容器などが汚れていたら、水に浸し固く絞った「ふきん」で拭き、すぐに乾拭きをする。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ふきん」で、内部や扉の汚れを拭き取り、よく乾燥させる。

●**ポイント** 汚れに気づいたら、そのつど水拭きと乾拭きをしておきます。特に調味料などをこぼしたら、すぐに拭き取る。



## 8.2 浴室

### 8.2.1 浴槽・洗面所

以前は柔らかく、キズのつきやすいポリでしたが、最近ではガラス繊維強化プラスチックと呼ばれる FRP 製が主流を占めてきています。水位部分にこびりついた水シミにはクリームクレンザーを使うが、ポリ製の場合はキズがつくことがありますので、注意が必要である。

また、材質によっては酸性洗剤やアルカリ洗剤で変色することがあるので、確かめたうえで行う。

#### 【用具】

スポンジ・ゴム手袋・浴室用靴

#### 【薬剤】

浴室用洗剤（中性タイプ）

#### 【準備】

**換気** ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめる。  
液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

**浴室用靴** 浴室用靴をはく。

#### 【作業要領】

1. 全体に水をかけて濡らす。
2. 水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、円を描くように洗剤をなじませ、全体をこする。

◆**注意** 硬いタワシやブラシなどでこすると、細かいキズがつく。  
必ず柔らかいスポンジを使う。

●**ポイント** アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、毎日の洗剤使用は必要ありません。週に 1~2 回の洗剤使用で充分である。

3. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流す。
4. 素手でさわってザラザラ感があれば、(2)と(3)を繰り返す。
5. よく乾燥させます。

●**ポイント** 乾いた「ぞうきん」で水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで水切りしておくと、シミが付きにくくなる。



## 8.3 トイレ

### 8.3.1 便器

#### 便器 内部

中性タイプの洗剤で取れない汚れは、黄ばみや尿石がほとんどである。この場合は酸性洗剤を使う。トイレ用の洗浄剤には、「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が両方ある。同時、または連続して使用すると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険です。注意事項をよく読んで正しく使う。

#### 【用具】

トイレ用ブラシ・ぞうきん・バケツ・ゴム手袋

#### 【薬剤】

トイレ用洗剤（中性タイプ）・除菌クロスなど

#### 【準備】

**換気** ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

#### 【作業要領】

1. 便器の中にトイレ用洗剤（中性タイプ）をかけ、トイレ用ブラシでこすります。かえしのあるものは、便器の縁の内側もこする。

●**ポイント** 毎日1回、水を流してトイレ用ブラシでこすると、汚れがたまりにくくなる。

2. 水を流し、汚れや洗剤分を洗い流す。

3. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、便器のまわりを拭きます。または、除菌クロスなどで拭く。



### 8.3.2 トイレのフタ

便座やフタはプラスチックで傷つきやすいため、ホコリがたまったまま水拭きをしたり、強い洗剤を使用したりしないように注意する。汚れに気づいたら、こまめに拭き取る。

#### 【用具】

ぞうきん・バケツ・ゴム手袋

#### 【準備】

**換気** ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

#### 【作業要領】

1. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、フタ、便座、便器の外側を拭きます。または、除菌クロスなどで拭く。

●**ポイント** プラスチックは傷つきやすいため、あらかじめホコリを取ってから、拭く。

2. 乾いた「ぞうきん」で、水気を拭き取る。



### 8.3.3 トイレの床

床 クッションフロアなど

トイレの床はホコリだけでなく、尿や水滴、結露の水などもニオイやシミの原因になる。尿がそのまま放置されると、成分であるアンモニアによって黒いシミが発生し、長時間そのままにしておくと床材を傷める原因にもなる。床にこぼれた水分や尿は、すぐに拭き取るように心がける。

#### 【用具】

掃除機など・ぞうきん・バケツ・ゴム手袋

#### 【薬剤】

除菌クロスなど

#### 【準備】

**換気** ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくする。

**移動** 床に置いてあるものを移動させ、終わったら戻す。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

#### 【作業要領】

1. 掃除機などで、ホコリを吸い取る。
  2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、汚れを拭き取ります。または、除菌クロスなどで拭く。  
**●ポイント** 白木（素木）を拭くときは、木目に沿って拭く。
  3. 乾いた「ぞうきん」で、水気を拭き取る。
- 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、汚れを拭き取ります。または、除菌クロスなどで拭きとる。
4. よく乾燥させる。





## 8.4 リビング

## 8.4.1 ビニールクロス壁

ビニールクロス壁は、耐水性があり、比較的掃除がしやすい素材ですが、発泡タイプは凹凸があるため、汚れがとれにくいこともある。合板・木質塗装壁は、力を入れてこするとプリント合板の模様が消えたり、塗装部分のはがれたりすることがあるので、注意が必要である。

## 【用具】

化学モップ、または帯電式のハタキ・脚立（踏み台）

## 【準備】

**換気** 窓を開け、風通しをよくする。

## 【作業要領】

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取る。



## 8.4.2 リビング壁のシミの取り方

明らかに油性のシミとわかっている場合の方法です。油性のシミには、クレヨン、油性マジック、灯油、口紅、ファンデーション、ヘアリキッドなどがある。

## 【用具】

スポンジ・ヘラ・カット綿・ぞうきん・バケツ・ゴム手袋

## 【薬剤】

ベンジン、またはマニキュア除光液

## 【準備】

**換気** 窓を開け、風通しをよくする。

**ゴム手袋** 洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。液がたれないよう端の部分を少し折り返す。

## 【作業要領】

1. 乾いたスポンジで、シミのまわりのホコリを取る。  
2. 盛り上がっている部分があれば、ヘラなどを使って、素材を傷つけないように慎重に削り取る。

●**ポイント** ヘラは、表面に対して45度くらいの角度に当てて行います。ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できる。

3. カット綿に、ベンジン、またはマニキュア除光液をつけ、軽くたたくように拭き取る。

◆**注意** ベンジンやマニキュア除光液でビニールクロスなどが溶ける場合は、使用を中止する。

4. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、汚れや溶剤分を拭き取る。

5. よく乾燥させる。



## 8.5 窓

### 8.5.1 透明ガラス

ホコリや汚れを長い間そのままにしておくと、しだいにガラス面に焼きついた状態になり、取れにくくなる。早めの掃除が大切です。掃除は、晴れた日より曇った日のほうが、汚れ落ちの状態がよくわかる。

#### 【用具】

ぞうきん・バケツ

#### 【作業要領】

1. 水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、拭いていきます。「ぞうきん」は、つねにきれいなもの、きれいな面を使う。

●**ポイント** 「ぞうきん」は数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくとう便利。

2. 乾いた「ぞうきん」で、水気を拭き取る。

●**ポイント** ケバが残りやすく、吸水性のいいクロスで拭くと、きれいに拭き取ることができる。

◆**注意** 結露をそのままにしていると、カビや水ジミ（水でできた白くにごった斑点）の原因になる。水ジミはガラスの成分が溶けたもので、通常の洗剤では除去することは不可能です。水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして、水気をしっかり拭き取っておく。



## 8.6 床

### 8.6.1 フローリング

白木（素木）以外のフローリングは、白木ほど注意は必要としませんが、やはり木でできていますので、水の使用量や使用する洗剤をまちがえると、変色やそりが生じることがある。水は少量で手早く行うことがポイントである。

#### 【用具】

化学モップ、またはペーパーモップ・掃除機・ぞうきん・バケツ、または除菌モップやウエットタイプのペーパーモップ

#### 【準備】

**換気** 窓を開け、風通しをよくする。

#### 【作業要領】

1. 化学モップ、またはペーパーモップで、ホコリを取る。

●**ポイント** 化学モップは、ホコリをたてないように軽く使うのがコツです。窓を開けることで、ホコリが舞い上がるようであれば、先にモップをかける。

2. 掃除機などで、集めたホコリを吸い取る。

3. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った「ぞうきん」で、汚れを拭き取り、すぐに乾拭きをします。または、除菌モップやウエットタイプのペーパーモップで拭く。

◆**注意** 1カ所だけをゴシゴシこすりすぎないように。塗料がはげたり、色が変わったりすることがある。

●**ポイント** 「ぞうきん」は数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくとう便利です。



## 改訂履歴

改訂№ 0	2020 年 04 月 29 日	初 版	新規制定
改訂№ 1	2020 年 04 月 09 日	第 1 版	
改訂№ 2	2020 年 04 月 10 日	第 2 版	
改訂№ 3	2020 年 04 月 13 日	第 3 版	
改訂№ 4	2020 年 04 月 16 日	第 4 版	
改訂№ 5	2020 年 05 月 02 日	第 5 版	